

## 会 議 録

会議名	平成26年度 第4回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成26年8月8日（金）13：25～16：20
開催場所	丸亀市役所 別館5階第1会議室
出席者	<p>（出席委員）</p> <p style="text-align: center;">岡本 恵子      金   永子      黒田 英津子      日野 明世 森   茂      石原 茂      仁科 清      早馬 倫代</p> <p>（説明のために出席した者）</p> <p style="text-align: center;">市長公室長      山田 哲也      政策課長      小山 隆史 政策課副課長      渡辺 研介      政策課主査      真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 所管課ヒアリング</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	1名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
小山政策課長	<p>それでは、第4回目の丸亀市行政評価委員会を開会いたします。本日は、昨日に引き続き、所管課ヒアリングとなっております。早速ですが、会長の方でよろしくをお願いします。</p>
金会長	<p>では、ヒアリングに入りたいと思います。所管課より事業説明をお願いします。</p> <p>事業No.4-① 産業振興対策事業費 事業No.4-② 丸亀ブランド化推進事業費 事業No.4-③ 産業活性化事業費 （ヒアリングに出席した産業振興課職員）</p> <p style="text-align: center;">課長                      林   一幸      副課長 平尾 聖 丸亀ブランド担当長 和泉 元治</p>
産業振興課	<資料に基づき事業説明>
石原委員	<p>予算の積算については、どのように行っていますか。また、過不足が生じた場合は、どうするのですか。</p>
日野委員	<p>いろいろなまつりを観光振興事業費と産業活性化事業費に分けているのは、どのような理由からですか。</p>
岡本委員	<p>桃の里まつりは、飯南の桃のPRという意味合いから産業振興との関連が分かりますが、婆娑羅まつりと産業振興の関連を説明してください。</p>

仁科委員	それらのまつりの企画、運営の主体はどこですか。
林産業振興課長	<p>予算については、経常的経費は、基本的に前年度と同額という枠がありますので、丸亀ブランド化推進事業費と産業活性化事業費は前年度の取組を維持するというので、前年度と同額を計上しました。産業振興対策事業費については、新たな取組になりますので、必要な事業費を積算した上で、予算を計上しました。補助金などは需要量の見込で予算計上していますので、ニーズによって不足が生じた場合は、補正予算による対応も考えたいと思っています。</p> <p>次に、まつりについてのご質問ですが、桃の里まつりは、飯南の桃を丸亀ブランドとしてPRしていくということから、産業振興の一環と区分されていると思います。また、婆娑羅まつりについては、丸亀TMO推進協議会が主催する中心市街地の活性化を目的として開始されたイベントであり、商工会議所との関係からも産業振興に位置付けているものと思っています。</p> <p>最後に、まつりの実施主体についてですが、桃の里まつりについては、市のほかJA、桃の生産部会などで構成する実行委員会、婆娑羅まつりは丸亀TMO推進協議会が主体となっていましたが、本年度からは実行委員会形式となっています。</p>
仁科委員	産業振興関連の補助金は、どのように支出し、使途の確認はどうしていますか。
林産業振興課長	要綱に基づいて、交付申請と実績報告をチェックした上での後払いの補助金ですので、使途を確認した上で支出しています。
岡本委員	婆娑羅まつりの市のコンセプトは何ですか。
林産業振興課長	中心市街地のにぎわいづくり、活性化に向けたPRの1つとして実施しているものです。
石原委員	講演会やセミナーの効果は、どのように考えていますか。
林産業振興課長	1回の講演会がどのように産業振興に結び付くのかは見えにくいと思いますが、企業訪問やアンケートの中で、市内企業の行政に対する期待感の薄さは、大きな問題と考えており、市が中小企業振興に力を入れているという姿勢をPRする意味でも、講演会やセミナーの定期開催を継続したいと考えています。
金会長	予算にある企業アンケート実施委託料 300 万円と経営セミナー・講演会等開催委託料 150 万円の内容はどうなっていますか。

林産業振興課長	企業アンケート実施委託料については、集計、分析等も含めて専門業者に一括で委託しました。経営セミナー・講演会等開催委託料については、講演会とセミナーを各1回実施したもので、相手先が個人ではなく事務所だったこともあり、開催を委託したものです。
金会長	計2回で150万円は、かなり高額ではないですか。これを毎年、継続するのですか。
林産業振興課長	決算額としては110万円ほどです。有名な方にお願いと、それなりの金額はかかるのですが、昨年度は、産業振興計画策定元年で講演会も初めての開催ということで、PRの意味からも、大きい金額を使って有名な方にお願いました。今後も継続しますが、金額や内容については、適宜、見直したいと思います。
金会長	産業振興の重要性や初めての開催という事情は分かりますが、身の丈にあった事業にしていくことも大切だと思います。
岡本委員	地域出身の方にお願するなど、工夫によって節約はできますので、限りある予算の中で、いろいろな方策を考えて欲しいと思います。
仁科委員	産業振興は継続性が重要ですので、持続可能な事業となるよう見直して欲しいと思います。
黒田委員	昨年度が元年ということですが、これまで丸亀市は中小企業対策をして来なかったのですか。
林産業振興課長	商工団体を通じての支援やイベントの開催、融資制度が主で、市が直接、講演会等の開催などに取り組むのは、初めてです。
黒田委員	どのような融資制度ですか。それと実績はありますか。
林産業振興課長	市と保証協会と金融機関が契約を結び、市が預託した融資枠の中で、保証が取れた額について融資が実行されるという仕組みで、実績はあります。
石原委員	骨付鳥のブランド力向上について、何か具体策はありますか。
林産業振興課長	ブランド事業については、最初は目新しさから注目を浴びることができて、同じことを続けていると、飽きられて下火になるので、様々な知恵を絞って、新たな展開を図る必要があると考えています。

岡本委員	ブランド事業の目的は何ですか。
林産業振興課長	「丸亀の桃」、「丸亀の骨付鳥」というように地域特産品を売り出していくことで、特産品としても、市としても知名度を向上させ、地域のイメージアップに繋げていくことを目指しています。
岡本委員	最近、「住みよさランキング」で丸亀が四国で1位だったと聞きましたが、住みよいまちとして認知されているのは、様々な面で良いところがあるからだと思います。昔ながらのうちのわをはじめ、合併によって多くの地域資源を持つようになりましてので、食に偏らず、もっと広く捉えたブランド力向上、イメージアップを目指していくべきだと思います。
仁科委員	新規の補助金の現在の状況はどうですか。予算の過不足はないですか。
林産業振興課長	産業振興支援補助金については、現時点で予算の半分程度の申請があります。
産業振興課平尾	今年度始まった事業であり、周知が不十分な面があるとは思いますが。現在、支援施策のガイドブックを作成しており、事業所にそれを配布して回る予定ですので、今後、実績を増やしていきたいと考えています。
岡本委員	ニーズ調査の結果を受けて、どんな課題があると認識していますか。
林産業振興課長	1番の課題は、市への期待感の薄さと感じています。先進地を見ると、行政と企業がタッグを組んで産業振興に取り組んでいます。本市では、まだ、そのような体制ができていません。
産業振興課平尾	インターンシップや人材育成、販路開拓、経営革新などニーズ調査で具体的な課題と読み取れる部分については、補助メニューを設けるなどしました。
岡本委員	企業側の大きな課題に、人出不足があるようですが、例えば、女性の潜在的な労働力を生かすことを考えると、子育て支援策との連携が求められると思います。このように、他の施策とも連携した課題克服、産業振興に着手して欲しいと思います。
黒田委員	これまで十分な産業振興施策を行っていないということはあるにせよ、すべてを市で行うことは不可能だと思います。産業振興については、商工会議所も得意分野を持っていますので、市はそこは違う分野で力を発揮すべきで、それが何かを探ることが大切だと思います。

<p>金会長</p>	<p>他にないようなので、ここで本事業のヒアリングを終わります。</p> <p>事業No.5-① 家庭児童相談事業費  事業No.5-② 児童虐待・DV対策等支援事業費  事業No.5-③ 地域組織活動育成事業費  事業No.5-④ 発達障害児支援協働事業費  (ヒアリングに出席した子育て支援課職員)  課長 大西 眞 担当長 黒田 千絵  (ヒアリングに出席した幼保運営課職員)  課長 山地 幸夫 副課長 栗山 佳子  主査 香川 美日子</p>
<p>子育て支援課 幼保運営課</p>	<p>&lt;資料に基づき事業説明&gt;</p>
<p>岡本委員</p>	<p>かつては各保育所にあった母親クラブが3つにまで減った要因をどう考えていますか。また、時代に合わないなどの要因があるとすれば、補助金のあり方についての見直しはしないのですか。</p>
<p>大西子育て支援課長</p>	<p>NPO等によるひろば型の地域子育て支援拠点事業など子育て支援に係る地域活動が多様化していることも一因と考えています。母親クラブも、多様な子育て支援策の1つとして、補助は継続しています。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>補助金の支給方法についても、一律の額の支給など見直すべき点があると思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>この補助金の申請条件は何ですか。ホームページ等で広く募集しているのですか。</p>
<p>子育て支援課 黒田</p>	<p>広報して団体を募ることはしていません。元々、国から県、県から市へと補助が下りて実施しており、かつては各保育所で盛んに活動されていました。それが尻すぼみになった現在も、かつてのままの補助金の支給方法を変えていないため、既存の3団体のみ一律の支給となっています。現状を見ても、支給方法等の見直しを考える時期を迎えていると思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>民間の地域子育て活動の活性化支援のためなら、既存団体に限らず、もっとオープンにして、活動したい団体を支えていくべきですし、補助金のあり方自体の見直しが必要だと思います。</p>

日野委員	家庭児童相談事業の予算 15,000 円は何に使うものですか。相談員の人件費は どうなっているのですか。
子育て支援課 黒田	研修費用や消耗品の経費です。家庭児童相談の相談員は、児童虐待・DV対 策等支援事業の相談員を兼ねていますので、そちらで人件費を計上しています。
岡本委員	NPOが発達障害児支援協働事業を行っている部屋を見ましたが、専門的な 図書が不足していると感じました。発達障害支援には、関係者や保護者の理解 が不可欠であり、そのために、専門書から学んだり、正しい知識を得ることが 必要です。図書館などとも連携して、蔵書を増やす方策を考えて欲しいと思い ます。
金会長	どのような経緯で始まった事業ですか。予算も大きいですが、主にどのよう に使われているのですか。
幼保運営課栗 山	このNPOは、以前から発達障害児支援を行っていた団体です。市の提案公 募型協働事業に当NPOが応募したことが始まりで、その後、発達障害児支援 モデル事業として、市と協働で実施しています。ここは、同じように小中学校 の事業も行っており、切れ目のない支援にも繋がっています。
岡本委員	NPOとの協働で行うことで、市役所内の部署の垣根を越えて、幼保小中の 連携が取れた取り組みになっており、すごく良い協働事業と思います。
山地幼保運営 課長	相談事業という性格上、相談員の配置が必要ですし、専門性の高い分野なの で、医師や大学教授などにサポートをお願いする機会もあります。その賃金や 謝金などほとんど人件費に使われています。
金会長	発達障害については、認識が深まるほどニーズも掘り起こされていく面があ ると思いますが、今後の事業展開は、どのように考えていますか。
山地幼保運営 課長	相談数が増加する中、NPOは積極的に活動していただいています。自己評 価では事業の方向性を維持としていますが、状況を見ながら、拡充する必要の ある事業と考えています。
金会長	現状、児童虐待・DV対策にはどのような課題がありますか。また、相談員 はどのような資格を持っていますか。

子育て支援課 黒田	<p>今年度から、相談員が1名増員になりましたが、まだ人員が足りないと感じています。また、相談件数やバリエーションの多さから、ケース記録の保存などの事務が煩雑化しており、個人の識別や児童相談所などとの連携にも時間がかかっていますので、システム化などの事務改善が必要と考えています。相談員は、保育士や社会福祉主事などの資格を持っています。</p>
金会長	<p>他に質問もないようなので、以上で本事業のヒアリングを終わります。</p>
	<p>事業No.6-① 児童館管理運営費  事業No.6-② ファミリーサポートセンター事業費  事業No.6-③ 子育て短期支援事業費  事業No.6-④ 小手島保育ママ事業費  事業No.6-⑤ 私立保育園援助費  (ヒアリングに出席した子育て支援課職員)  課長 大西 眞 担当長 黒田 千絵  (ヒアリングに出席した幼保運営課職員)  課長 山地 幸夫 副課長 栗山 佳子  担当長 堀瀬 晴彦 主査 香川 美日子</p>
子育て支援課 幼保運営課	<p>&lt;資料に基づき事業説明&gt;</p>
岡本委員	<p>児童館に指定管理者制度を導入した理由は何ですか。</p>
子育て支援課 黒田	<p>東小川児童センターについては、児童館と公民館の複合施設であり、窓口が2つあって、分かりづらいという利用者の声がありましたので、一括して指定管理者制度を導入することで、窓口を一本化しました。丸亀市児童館については、生涯学習センターに指定管理者制度が導入される中、児童館部分だけは運営委託しておりましたが、指定管理者の変更があった場合に、運営に支障をきたす恐れがあると考え、生涯学習センターの指定管理の中にも含めることとしました。</p>
岡本委員	<p>指定管理者制度の導入が市の管理の都合で決められるのはおかしいと思いますが、導入後の児童館の運営状況はどうですか。</p>

子育て支援課 黒田	直営の時は、専門職員の配置があるわけでもなく、開けているだけという感がありましたが、指定管理者制度を導入することにより、東小川児童センターでは、休館日だった日曜日を開館するようになりました。また、丸亀市児童館では、生涯学習センターでの指定管理者による事業との連携など、これまでのノウハウも生かして、集客増を目指していますので、活性化に向けた取組がなされていると感じています。
森副会長	利用者数は増えましたか。どれくらいの利用がありますか。
子育て支援課 黒田	年度途中ですが、利用者数は増加しています。平成25年度実績でいえば、丸亀市児童館が開館日数299日、利用者数18,514人、東小川児童センターが開館日数301日、利用者数16,655人でした。
金会長	指定管理者制度を導入することによって、人員配置や予算面はどう変わりましたか。
子育て支援課 黒田	人員は、それまでの市が配置した臨時職員等は居なくなり、指定管理者による配置がなされています。予算面では大きな変化はありません。
岡本委員	児童館の役割は、児童の健全育成です。市の管理事務の簡素化や経費削減の前にその役割はしっかりと担保されるように、指定管理者制度導入後も検証を続ける必要があると思います。そして、児童館のあり方について、きちんと所管課で考えて欲しいと思います。
大西子育て支援課長	指定管理者に対するモニタリングやヒアリングもありますので、そこでの検証をきっちりを行い、児童館のあり方を考えていきたいと思います。
日野委員	保育士等の処遇改善の補助金はどのような実績ですか。
幼保運営課堀瀬	民間保育園9園に対して2,517万7,000円の補助がなされました。単純に人員数で割ると1人あたり月6,000円強の処遇改善がなされている計算になります。
岡本委員	待機児童はどのような状況ですか。



幼保運営課栗山	近年、年度当初は0人ですが、年度途中で、25年度は0歳児6人、24年度は0歳児17人、23年度は0歳児4人というように発生しています。また、これは国の基準で数えたもので、近くの保育所に入所できるまで待っている人や求職中の人などは除かれていますので、実際はもっと多くの申請者が保育所入所を待機しており、その数は、25年度末では0歳児150人、1，2歳児77名まで膨れ上がります。その対策については、新制度の導入に向けて策定中の子ども子育て支援事業計画の中でも検討しています。
金会長	事業の方向性を拡充としているのは、その点を踏まえてのことですか。
幼保運営課栗山	加えて、特別保育について、保護者のニーズを踏まえて、拡充しなければならない部分があると考えています。
岡本委員	平成27年度からの新制度により、年度末の待機児童も解消できる見込みですか。
大西子育て支援課長	子ども子育て支援事業計画では、平成27～31年度までの5年計画で、待機児童についても解消していく方向で対策を練っています。
幼保運営課栗山	待機児童の大きな要因は、保育士の不足です。国の基準から見ると施設としては受け入れ人数には余裕がありますが、保育士の数が基準に満たないため受け入れができません。県においても、保育士バンクや潜在保育士の就職マッチングなどの確保策を打ち出していますが、現状では、全然追いついていません。
仁科委員	ファミリーサポートセンター利用料の補助、無料化は考えていないのですか。
子育て支援課黒田	1人親家庭に対する半額補助はありますが、無料化は考えていません。
岡本委員	おねがい会員とまかせて会員の内訳はどうなっていますか。
子育て支援課黒田	おねがい会員440人、まかせて会員150人、両方の会員16人となっています。おねがい会員には登録だけの人も居ますが、会員のアンバランスがあります。
岡本委員	ニーズの高い事業だと思うので、アンバランスの解消は課題ですが、どのような対策を考えていますか。
子育て支援課黒田	広報活動が主ですが、近隣の市町と提携した養成講座など広域的な会員の増加を目指しています。

日野委員	登録するときに、動ける曜日や時間の条件は付けられますか。
子育て支援課 黒田	登録時に、確認しています。
仁科委員	6ヶ月から小学6年生までが対象ですが、ずっと同じ人に任せるのですか。
子育て支援課 長	初めにマッチングがありますので、基本的には、マッチングできた人にずっと頼むようになります。
日野委員	ショートステイとトワイライトの利用状況や利用者の傾向はどうですか。
子育て支援課 黒田	緊急一時的という要件があるためか利用はあまり多くありません。25年度は延べ数でショートステイ9人、トワイライト6人です。受け入れ側の枠によっては断らざるを得ないケースもあります。利用理由の大半は就労のためで、利用者はすべて一人親家庭です。
日野委員	児童養護施設には複雑な事情を抱えた子どもが居ますが、同じように見てももらうことになるのですか。
子育て支援課 黒田	極力、部屋は別にしてもらっています。
金会長	断らざるを得ないケースもあるとのことですが、需要は多いのですか。
子育て支援課 黒田	需要は少ないと思います。
大西子育て支援課 長	自己負担が必要となりますし、制度を知らない人の方が多いというのが実情と思います。
金会長	小手島保育ママの始まった経緯は何ですか。
幼保運営課堀 瀬	広島保育所の休園に際して、2名以上の入所希望がある場合は保育を再開するという約束事がありました。そこで、小手島に2名の入所希望者が出たことがきっかけとなり、小規模の保育ママ事業がスタートしました。
金会長	今後も、同じような状況があれば、再開するのですか。

<p>幼保運営課栗山</p>	<p>新制度の中にも、家庭的保育事業のような少人数の保育事業がありますので、地域によっては、それを活用して、保育ニーズを満たしていくことになると思います。</p>
<p>金会長</p>	<p>他にないようですので、これで本事業のヒアリングを終了します。</p>
<p>金会長</p>	<p>長い間お疲れさまでした。2日間のヒアリングは終わりましたが、事務局からその他で何かありますか。</p>
<p>政策課真鍋</p>	<p>&lt;事務連絡&gt;</p>
<p>金会長</p>	<p>それでは、本日の会議はこれで終わります。お疲れさまでした。</p>